

週刊 タバコの正体

今年2月、JR 東海は新幹線全駅に喫煙ルームを設置することを発表しました。大勢の人が往来する駅に煙が漏れない喫煙室が設けられることは受動喫煙を防ぐために必要なもので、新幹線全駅に設置されるのは当然だろうと思います。

平成25年2月14日  
東海旅客鉄道株式会社

東海道新幹線 全駅への喫煙ルームの設置について

当社では、たばこを吸われないお客様、吸われるお客様双方に、より快適に駅をご利用いただくため、東京、名古屋、新大阪など、のぞみが停車する全駅に順次、喫煙ルームの設置を進めておりますが、今回、東海道新幹線全駅のホームまたはコンコースに、喫煙コーナー（屋外）を室内化した喫煙ルームを設置することとしましたので、お知らせいたします。

1. 新たに喫煙ルームを設置する箇所（計11駅13箇所）
  - ・ホーム上に設置（3駅5箇所）：三島駅、静岡駅・浜松駅（上り・下りホーム）  
※三島駅は島式ホームのため、上り・下りで1ホーム
  - ・コンコースに設置（8駅8箇所）：小田原駅、熱海駅、新富士駅、掛川駅、豊橋駅、三河安城駅、岐阜羽島駅、米原駅
2. 設置スケジュール
  - ・平成25年2月下旬頃より順次、工事に着手
  - ・平成25年度末までに、各駅で順次使用開始
3. 工事費（概算）
  - ・約1.6億円（計11駅13箇所）

【喫煙ルームのイメージ】

・各駅の具体的な設置位置や広さについては、今後決定してまいります。



(ホーム上に設置する場合)



(コンコースに設置する場合)

今まで、タバコの煙やニオイを不愉快に感じていた人達は、「ようやく作ってくれたか」と感じていることでしょう。

ところで、案内文を良く見ると、この喫煙ルームはJR東海管轄内の11駅13箇所に設置されるようですが、それには、なんと1.6億円もの費用がかかるようです。

13箇所に1.6億円ということは、1箇所に1千万円を超える費用がかかる訳です。

煙もニオイもなくなるのはうれしいけれど、タバコを吸う人

のためにそんな大金をどうやって工面するのでしょうか。喫煙者も非喫煙者も運賃は同じなのに、喫煙者しか利用しない部屋があるのは少し不公平な気がしないでもありません。

ともかく健康を害するタバコを吸うために多額の費用をかけなければならないのは、もったいない限りです。タバコを吸う人がいなくなればそんな必要はないのにとすると、これから大人になる君たちがタバコを吸い始めない事を願うばかりです。

産業デザイン科 奥田 恭久